

合掌苑だより

かやの実



児童養護施設 合掌苑 〒501-4101 岐阜県郡上市美並町上田 674

電話 0575-79-2914

FAX 0575-79-3584



「時代の移り変わりを感じます」

合掌苑 苑長 成澤 武史

コロナウイルス感染症も一向に終息を迎えることはなく、ウクライナ情勢をはじめ世界情勢も落ち着きを見せないまま新たな年度を迎えましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

当苑でも GW 前後でコロナウイルスに子どもと職員が数人感染し、ご心配をおかけしましたが、幸い症状も軽く回復し、元気な毎日を過ごしております。

さて、今年2月に合掌苑創設者である岡本幹翁氏と共に、長きにわたりご尽力されました酒井道雄氏が、98歳でその生涯に幕を降ろされました。4月3日には本葬と偲ぶ会を行い、多くの方々に見送って頂き、ご家族様と共に礼申し上げます。コロナ禍という事情もあり、開催について、開催方法について、大変悩みました。皆様のお気持ちに十分応えられなかったことをお許しください。酒井氏のご活躍についても、また折に触れて本誌で紹介できればと思います。

時代の移り変わりはございますが、いつの時代もその情勢に犠牲になるのは社会的に弱い立場の人達…、子どもを取り巻く環境は、まだまだ大変な状況にあるのだと痛感させられます。ウクライナの戦場における子ども達、他人事では済まされません。先人達によって平和は努力して保たれてきたのだと感じます。先進国と呼ばれる日本においても、子ども達は貧困や虐待、ヤングケアラーと呼ばれる家庭環境があります。社会的養育の環境はまだまだ整ってはならず、子どもの虐待死のニュースは毎週のように流れています。

苑において生活している子ども達とはといえば、コロナで行事がなくなったりはあるものの、健康に楽しく、学校やクラブ活動など頑張っている姿が見られます。そんな姿は、私たち大人にとっても励みになり、これから保護が必要な子ども達とも積極的に関わっていこうという勇気を与えてくれます。

昨年度、小規模化・家庭的養護へ向かい、新たな建物を建設しようと考え進めておりました。しかしながら、コロナ情勢や資材の高騰により計画を一時中断せざるを得ず。子ども達も職員も小規模な単位でのより家庭的な雰囲気での生活を楽しみにしております。情勢は良くはなっておりませんが、日々の生活を守る現場において、そうそう先送りに出来ないこともありますので、なるべく早くの小規模化と施設が地域に対して支援に入れるよう、体制を順次整えていく所存でおりますので、皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



酒井先生の本葬へは、子ども達もお参りに行かせていただきました。多くの方がお見送りにみえ、酒井先生の偉大さを改めて感じました。

合掌苑の紹介

令和4年度
～子ども編～

With コロナという新しい生活様式の中ですが、今年度も元気いっぱいな子どもたちの様子を紹介します。

A 担当 (幼児～小)

A担当は幼児2人、年長児2人、小学生2人の6人の元気な男の子たち。元気いっぱいな子たちで毎日とても賑やかに生活しています。今年度のA担当は「自分もお友達も大切にしよう」「自分の事はできることから頑張ろう」という事を大切にしています。ケンカをしてもお互いに話をしてきちんと「ごめんなさい」を言う、おもちゃの取り合いになっても「先に使っても良いよ」「後で貸してね」と譲り合う事など、子どもたち自身で解決する力をつけて欲しいなと思っています。早速、子ども達もできる事が少しずつ増えてきてきました。お布団が畳めるようになったり、色々な片付けや準備を進んでやったり、トイトレが成功したり…。「自分でできた!」と達成感と充実感で子ども達自身も喜んでいきます。元気いっぱいな子ども達に負けられないように担当職員一同子ども達の成長を精一杯支えていきたいと思っています。

B 担当 (小～高校生)



B担当には、男子児童が8名、女子児童が3名共に生活しています。ゲーム好きな男子と、外遊びが好きな女子と対象的ではありますが、皆仲が良く休みの日には鬼ごっこやサッカーをしています。

今年から高校に進学した児童は、陸上部に入部しました。毎日帰りが遅く、身体が心配になるほど練習を頑張っています。経験者ばかりの中で焦りも感じているようですが、なにより楽しいと話してくれました。また小学6年生の児童は、「水族館の飼育員さんになる」という夢を持ち続けており、いつか専門学校に進学する為、家庭学習を頑張っています。コロナが落ち着いたら、水族館に連れていくと約束しました。一人ひとりが、夢や目標を持って、自分なりに取り組んでいます。職員たちは、そんな子ども達の夢をこれからも応援していきます。



今年度のかやのみ館は女子5名、男子2名で幼児～高3の男女混合の縦割りです。大きい子は小さい子の面倒をみてくれて、小さい子は上の子に遊んでもらい幅広い年齢層ですが和気あいあいと毎日楽しく過ごしています。より家庭に近い生活空間を目指している中で、毎食調理が始まったことで、料理をしている職員の姿を見て時には一緒に作ることもあれば率先してお手伝いをしてくれる子もいます。また今年は新高校生、新中学生がいます。この子たちにとっては苑でも学校でも新しいスタートになりましたが、沢山の人の関わり、友達を作り、沢山の経験ができることなのでしょう。私たち職員も、子どもたちと日々楽しみを見つけてまた思い出の1年にできるよう取り組んでいきたいと思っています。



今年度の福祉館は、小学2年生から高校1年生までの男子6名でスタートです。中には小規模グループを初めて経験する子もいて、わくわくの新生活が始まりました。新高校生になり部活動や勉強が今まで以上に大変となる子、受験生として高校受験を控えている子たちがいます。その中で中学生や高校生は自立に向けた活動をしています。自分で洗濯を回して干したり、食べた食器は自分で洗ったりするなど。中には苦手な子もいますが、頑張っていてやっています。小学生さんもよくお手伝いをしてくれます。昼食や夕食の手伝い、洗濯物を畳んでくれることなど、いつもすごく助かっています。また、上の子が下の子の面倒を見てくれる姿もみられます。時には度が過ぎたちょっかいをかけてしまうことも…。その為、茶話会や、担当会などを通してみんなの仲を深めていけたらなと思っています。コロナ禍ということもありあまり外出はできませんが、できることを計画して、豊かな生活を作っていきたいと思っています。

明日葉



分園型小規模グループ“明日葉”も3年目となりました。子ども6名、職員4名体制での生活です。家庭的な雰囲気、子どもたちと楽しく賑やかに過ごす事が目標です。今年度から、新高校生、新中学生になる子がおりそれぞれ新生活が始まりました。新しい環境でもすぐに慣れ、新しい友達もたくさん作ることができているようです。学校で友達と過ごす時間の中で、今しかできない事をたくさん経験し、思い出をたくさん作ってほしいです。子ども達は体を動かすことが大好きで、中学生はそれぞれ部活動やクラブ活動を一生懸命頑張っています。地域の方からも応援していただき、とても励みになっています。様々な場面で地域の方の優しさに触れられることを、大変うれしく思います。

まだまだコロナ禍で我慢をしなければならない状況が続きますが、子どもたちと一緒に楽しい時間、日々の小さな幸せを見つけながら今年度も過ごしていきたいと思っています。

合掌苑の紹介

令和4年度
～施設編～

今年度の合掌苑の取り組みや体制について紹介します。



令和4年度は、5グループ（内小規模グループケア3グループ）の児童数計36名、常勤職員32名でスタートしました。家庭的な環境に近づくための小規模化に備え、現在準備を進めております。建物の整備、職員の増員・育成（職員交流、研修制度、等）、などに取り組んでいます。

また、当施設もあと数年で創立から70年が経とうとしています。心理学では、人の成長、発達において育ちの歴史を知ることが重要だと言われます。幾年月を経て時代の移り変わりを感じる中だからこそ、施設職員としての確固たる安定感、時代に合わせて変化していく柔軟さの両方が必要だと強く感じています。そのために、職員一同で合掌苑の歴史を知る作業（ライフストーリーワーク）にも取り組んでいきたいと思っています。

今年度も子ども達がより安心した環境で育つことができるよう尽力します。ご支援とご協力のほど、よろしくお願い致します。

子ども写真館

最近の子ども達の様子を写真で
ちょっとご紹介！



3月卒園式。立派な姿で卒園証書を受け取っています。感動。

3月苑内でのお別れ会。感染対策をしっかりと行い、みんなで卒苑する児童を見送りました。



4月、今年も苑の入り口の桜が咲いてくれました。美しい。

4月、新体制の発表。今年は感染対策で、外で発表。寒い。



4月、新1年生が新しい制服を着てみました。今年は小中高で入学する子がいて、どの子どもも成長した後姿がまぶしいですね。

最近、ジェイボードという道具が子ども達の間で大流行！いつも順番待ちで使っています。子どもの方がスイスイ乗っていて、感服です。



中高生はPCでゲームをしたり動画を見たり、自由な時間も過ごしています。フォートナイトやマイクラ等々。これはAPEXかな？



新 人 職 員 さ ん 紹 介



尋ねてみ
ました！

今年度の新人職員さんです。合掌苑の一員として、今後ともよろしくお願ひします。

- ①施設もしくは合掌苑で働こうと思った理由は？
- ②1 か月たった今の気持ちや感想
- ③今後の意気込み

平光奈菜世

- ①大学の実習で合掌苑に来た際、施設が温かい場所であることにとても驚き、興味を持ちました。また、この実習を終えても子ども達や職員の方々ともっと多くの時間を過ごしたいと思った為、合掌苑を志望しました。
- ②子ども達と徐々に距離が縮んでいるのを実感した瞬間や、職員の方々が私と子ども達との関係が深まるような配慮もして下さることがありました。そういった職員の方と子ども達との関わりを見ている中で参考になる事も多く、学ぶ事ばかりの一か月でした。
- ③子ども達との信頼関係を築くために、何においても少しずつの積み重ねが重要だと思っているので、これから合掌苑での毎日を大切に過ごしていきたいと思っております。



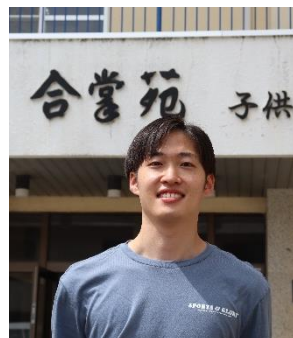
村瀬有海

- ①ボランティアで児童養護施設に出向く機会があり、心身ともに子どもたちを支える仕事に魅力を感じ、合掌苑を志望しました。
- ②当初は不安や緊張でいっぱいでしたが、1 か月ほど働き、子どもたちも職員のみなさんも担当関係なくフレンドリーに接して下さいました。合掌苑は子どもたちだけでなく、職員までもが安心できる環境であると感じました。
- ③子どもの気持ちを第一に考え行動していき、頼りたいと思ってもらえるような存在になりたいです。



吉富左京

- ①大学の講義で合掌苑の職員さんが何回かゲスト講師で来てくださり、そこで合掌苑の存在を知り興味を持ちました。実際にボランティアをさせていただいた時に、本館で会った子が「ここは良い所だよ」と話してくれたのを聞いて、子どもにそう言ってもらえるこの施設で働きたいと思いました。
- ②1 か月経ち、子ども達や職員の方と仲良くなれたと実感できる場面が多く、とても楽しいです。特に今楽しいのは子どもとテレビ(ドラマやバラエティなど)を観ながら次どうなるかを予想し合うことです。
- ③今はまだ、子ども達に支えてもらいながら生活を送っているので、これから少しずつ子ども達の支えになれる職員を目指します。そして身体を動かすことが好きなので、子ども達と沢山外で遊びたいです。



「温かい心」 (令和3年12月～令和4年3月)

合掌苑の苑児たちに沢山の方々から、温かいご支援を賜りました。略儀ながら紙面にお名前を掲載して御礼の言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。

(有)郡上八幡自然園	(有)和田ファーム	CBCチャリティ募金	FFサポート株式会社	JAめぐみの	アサヒ飲料株式会社
石田秀夫	一柳芳之	一般財団法人日本児童養護施設財団	井亦照美・水野照	延寿寺	
大石寿司	大島哲夫	太田岩雄	岡本幹彦	小椋庸行	カーブス下呂
株式会社M・クリバー	株式会社エースフードジャパン	株式会社ケイジェイシー	粥川秋廣	河合清子	
国田ゆう子	畑佐和昭	松森久子	福手淳子	心Reborn協会	小鷹啓徳
小松いく代	小見山知香	近藤貴子	桜井食品	下田子ども会	昭和企画
鈴木照子	鷲見明	高垣組	高橋安広	伊達直人	玉田正司
千葉道枝	塚原大和	土屋早織	筒井照明	手打ちそば かつう	ドミノピザ
トヨタL&F中部(株)	長尾花子	西脇一平	二宮春美	日本鏡餅協会	羽生紀恵
日本ゼネラルフード株式会社		馬場朝香	ビッグスワン理美容業合同会社	広福寺	
藤川泰広	古川直	古田勝弘	古田道子	北辰寺	前田富子
松尾栄・真由美	松尾やゑ子	マルフジ	丸山茂	宮嶋友紀	森永遠
八代裕子	安江守安	有限会社トップス	連合岐阜青年委員会	和田貴広・谷口純一	和田雅也
ワールドメイト岐阜トボックス		渡辺若菜	東谷音々	溝川玲奈	
渡利實	(株)27 かつ弥	(株)Recopa	(株)一松	(株)チュチュアンナ1%クラブ	

★勝手ながら敬称を省略させていただきました。万一誤表記、掲載漏れがございましたら、なにとぞご容赦願います。

<後援会「友の会」について>

・親と一緒に暮らせない子どもであるからこそ、豊かな生活・豊かな環境が保障されなければなりません。この為にも合掌苑では後援会組織「友の会」を結成しております。

・会費3,000円、皆様のお力添えをお願い致します。

・詳細については、「友の会」事務局、合掌苑までご連絡下さい。

☆ 友の会としてご入金いただいたお金は、合掌苑 施設会計に寄付金として計上し、子ども達の生活に役立たせていただきます。今後とも皆様には引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、お願い申し上げます。皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

編集後記

今年は季節が早く移ろいでいるようです。早くも半袖姿の人をみかけるようになりました。寒さを知らない子ども達に負けじと、職員(私だけ)も半袖、短パン姿で、元気に走り回っております(5月末現在)。皆様はお元気にお過ごしでしょうか。衰え知らずの「コロナウイルス」に、ウクライナとロシアの戦争が起きている今、大人も子どもも、決して他人事ではないと向き合ってきました。我々大人も、住む家があり3食ご飯が食べられることに幸せを感じながら、子ども達に夢や希望を与えられるよう努めていきたいと思っております。